解　説

第 ９ 章 運輸・通信

鉄道の乗車人員数

全ての鉄道主要各社で増加

鉄道主要各社によると、令和5年の府内の駅の乗車人員数(1日平均)は、地下鉄(ニュートラム含む)は236万6,024人(前年比14万7,619人、6.7%増)、JR西日本は200万3,107 人(前年度比10万1700人、5.3%増)、阪急電鉄は105万4,845 人(前年比4万984人、4.0%増)、南海電鉄は60万7,215人(同
4万8,551人、8.7%増)、近鉄は55万870人(同5,617人、1.0％増)、京阪電鉄は45万1,455人

 (同1万8,138人、4.2%増)、阪神電鉄は18万8,788人(同1万5,143人、8.7%増)です。

※近畿日本鉄道の乗車人員数調査は、平成28、29、31・令和元、2年は行われていません。

※凡例横の数字は、府内の駅の数です。

[第9章1～3表より]

 主な鉄道会社の乗車人員数(府内駅・1日平均)

自動車保有車両数

総数はほぼ横ばい、低公害車は増加が続く

一般財団法人自動車検査登録情報協会によると、令和5年度の府内の自動車保有車両総数は356万7,071台(前年度比1万9,148台、0.5%増)です。このうち低公害車は67万1,324台(同5万8,509台、9.5%増)で、増加が続いています。

 自動車保有車両数

空港旅客数

[第9章9、18表より]

国際線・国内線とも２年連続増加

関西エアポート株式会社によると、令和5年の関西国際空港の旅客数は、国際線は1,637万人 (前年比1,401万9千人、596.5%増)で大幅増加、国内線は693万人 (同134万3千人、24.0%増)で増加しました。

大阪国際空港の国内線の旅客数は1,475万4千人 (同322万6千人、28.0%増)で、増加しました。

 空港旅客数

[第9章24表より]

情報通信機器保有率

スマートフォンは9割を越える

通信利用動向調査によると、令和5年の情報通信機器の世帯保有率は、モバイル端末(携帯電話、PHS及びスマートフォン)は97.6%(前年比0.6ポイント減)、スマートフォンは92.0%(同0.1ポイント増)、パソコンは60.3%(同7.7ポイント減)、固定電話は61.3%(同3.9ポイント減)、タブレット型端末は31.8%(同6.0ポイント減)です。

 情報通信機器の世帯保有率

※ＰＨＳは、令和3年1月31日で個人向け提供は終了しています。

[第9章31表より]